

m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

国立公文書館	
分類	返 赤
配架番号	3 A
	14
35-11	

1040

SHIPPING ADVICE # 1040
SACK # 186
ITEM #

試製四十一運糧強能取扱上ノ参考

總説

第一 構造機能ニ關シテハ本砲ノ説明書ニ俾ルモ尙取扱上ノ諸注意及
参考事項ヲ左ニ記載ス

第一章 分解結合

第一節 通則

第二 一 材料各部ノ變歪ハ火砲固有ノ性能ヲ減殺ス故ニ諸部具ノ取扱
ハ細心ノ注意ヲシテ鄭重ニ行ハサルヘカラス
特ニ發火機等ハ細部々品ヨリ成リ且精功ナル機能ヲ有スルモ
ノナルヲ以テ各部ノ分解手入保存等ニアタリテハ細心ノ注意
ヲ以テ行フヘシ
ニ 構造機室及象限機室ハ其ニ精密ナル規正ヲ行ヘルモノナルヲ
以テ強打撃突スヘカラス
本砲ノ各部品ハ相當ノ重量物ナルヲ以テ分解結合ニ際シテハ
特ニ危害豫防ニ注意スヘシ

国立公文書
分類
配架番号 35-1

めくれず

第三 左ノ部具ハ遣兵廠ノ外分解スヘカラス

一 照準儀室托坐

二 象限儀室

三 照準儀（眼鏡ト眼鏡托坐トノ結合装置ヲモ含ム）

四 象限儀

五 區力計

六 復坐機空氣罐唧筒

七 照準管

八 各電動機及發電機

第四 左ノ各部具ハ修理交換又ハ精密手入ノ際ニ限り分解シ得ルモノ

トス

一 照準管ノ前後螺紋及螺及緊要具

二 照準管ノ活算桿及心桿

三 復坐機唧筒ノ後方螺紋及螺及緊要具

四 復坐機活算桿及桿頭ノ緊要具

五 復坐機ノ注氣注液及排液弁

六 閉鎖機火門軸（修理交換ノ場合ニ限ル）

第五 材料ノ分解結合ハ前記制限スルモノノ外必要ニ應シ軍隊ニ在リ

テハ中隊長若クハ兵器委員部分ヲ指定シテ行ハシムルモノトス

總テ分解結合ハ將校監督ノ下ニ行フモノトス

而シテ重要ナル部分ノ分解結合ハ兵技下士官（鍛工科）ヲシテ實施

セシムヘシ

第二節 閉鎖機

第六 發火裝置ノ分解（火炮ニ結合セラレアル場合）

所要工具

(イ) 木槌（手入用具箱中匣收容）

(ロ) 丁字形ねじ同（大）「スハナ」箱（一號收容）

一 閉鎖機閉鎖ノ位置ニ於テ照準桿扛起板ヲ後方ニ牽引シ擊針室托坐左

側ノ握頭ヲ側方ニ牽引シツ、四十五度左旋回シ擊針室托坐ニ擊針

結合シタル後後方ニ離脱ス

第七 發火装置細部ノ分解順序左ノ如シ

- 一 頭環ノ割「ピン」ヲ脱シ頭環ヲ螺脱ス
- 二 扛心板軸ノ「ナット」ヲ螺脱シ扛起板軸ヲ抽出後陸桿ヲ起振トシ
ニ「ね」ヲ離脱シ陸桿ヲ前方ニ抽出ス
- 三 陸桿室及止板ハ精密ナル規正ヲ施シ結合シアルヲ以テ通常分解
サルモノトス
- 四 安全板極軸ノ割「ピン」ヲ脱シタル後頭環ヲ左方ニ安全板極軸ヲ
右方ニ脱シ安全板ヲ離脱ス
- 五 安全板ハ通常分解手入ノ際ハ分解セサルモノトス
- 六 遊機ヲ下方ニ「区」引鐵トノ連絡ヲ絶チ引鐵ヲ約五十度上方ニ旋回
シ引鐵軸ヲ右方ニ離脱シ引鐵ヲ後方ニ脱ス
- 七 蓋板下端ノ二箇ノ小ねチヲ螺脱シ蓋板ヲ前方ニ離脱ス
- 八 彈機はねノ短邊下部ニねチ同ヲ装シ上方ニ浮シツ、後方ヨリ木槌

RESTRICTED

186. Printed booklet, "Reference on Operation of 41cm Howitzer," undated. 384214

Index No.

Scanner

Team

WDC No.

RESTRICTED

めくれず

フ結合シタル後後方ニ離脱ス

第七 發火機細部ノ分解順序左ノ如シ

一 頭環ノ「ピン」ヲ脱シ頭環ヲ離脱ス

ヲ以テ輕ク槌打シ前方ニ離脱ス

ハ遊嘴ヲ組立タルマ、撃針ヲ後方ニ取出ス

ハ抽筒子軸ノ小ねぢヲ脱シ抽筒子軸ヲ上方ニ抽出シ磁子ヲ回轉シテ

其ノ平面部カ撃針室ト平行ニナル如クス

一 撃針室托坐ヨリ撃針室ヲ左方ニ抽出シ磁子抽筒子ヲ離脱ス

一 頭環ヲ螺脱シ撃針及同ねヲ前方ニ離脱ス

結合ハ分解ノ反對ノ順序ニ行フヘシ

撃針ヲ結合スルニ際シテハ撃針ヲ取レタル後同ねヲ入レ絶對ニ反

對ニスルカ如キ事無キ様注意スヘシ

第八 電氣發火機ノ分解ハ火砲ニ結合セラレアル場合

所用工具

(イ) 木槌(手入用具箱中匣收容)

(ロ) 丁字形ねぢ同(小)(大) (「スバナ」箱一號)

一 發火機ヲ分解スルニハ閉鎖機閉鎖ノ位置ニ於テ磁彈扛起板ヲ後方ニ

引針ノ發針室托坐左側ノ轉頭ヲ側方ニ牽引シツ、四十五度左旋回
シ發針室托坐ニ發針室ヲ結合シタル體後方ニ離脱ス

第九、發火機細部ノ分解順序次ノ如シ

- 一 頸環ノ割「ピン」ヲ脱シ頸環ヲ離脱ス
- 二 扛起板軸ノ「ナット」ヲ脱シ扛起板軸ヲ抽出後此桿扛起板ト共ニばねヲ離脱シ腔桿ヲ前方ニ抽出ス
- 三 抽筒子軸ノ小ねぢヲ脱シ抽筒子軸ヲ上方ニ抽出シ磁子ヲ回轉シテ其ノ平面部カ發針室ト平行ニナル如クス
- 四 發針室托坐ヨリ發針室ヲ左方ニ抽出シ磁子抽筒子ヲ分離ス
- 五 蓋螺ヲ離脱ス
- 六 發火針桿後端ノ「ナット」ヲ脱シ接觸子ばね及接觸子ヲ離脱ス
- 七 區螺筒ヲ離脱セル後電線端子坐環絶緣螺(甲)接觸桿ヲ結合セル體下方離脱シ電線端子坐環絶緣螺(甲)接觸桿ヲ分離ス
- 八 托筒室上方ニ結合セラレアル樞軸ヲ上方ニ起シ左方ニ脱ス
- 九 托筒座ヲ後方ニ離脱シ磁子ヲ脱ス

一 發針ノ發火機ヲ離脱シ發火針桿發火針筒絶緣筒(甲)外環發火針桿ばねヲ各分離ス
ねヲ結合セル體離脱ス

二 發火針桿發火針筒絶緣筒(甲)外環發火針桿ばねヲ各分離ス
結合ハ分解ト反對順序方法ニ依ルモ電氣發火機部品中「エボナ
イト」絶緣體ニハ絶體塗油セサル様注意スルヲ要ス

第十 頭体ノ分解

所用工具

- (イ) 木槌 (手入用具箱中匣收容)
- (ロ) 頭体「ナットスパナ」 (「スパナ」箱五號中匣收容)
- (ハ) 頭体復「ナットスパナ」 (「スパナ」箱五號中匣收容)
- (ニ) 火門軸用提環 (提環箱收容)
- 一 閉鎖機ヲ半開鎖トナス
- 二 頭体托板ヲ後方ニ離脱ス
- 三 螺体底板ヲ離脱スルニハ底板提環ヲ前方ニ壓シツ、上方ニ約四十
五度左回シ螺体トノ板台ヲ解キ後方ニ離脱ス

四 頭体「ナット」スバナーヲ用ヒ頭体復「ナット」ヲ螺脱ス
五 頭体「ナット」スバナーヲ用ヒ頭体「ナット」ヲ螺脱ス
六 防壁環ヲ立タル儘後方ニ脱ス
結合ノ際前後ヲ誤ラサル如クス（ころノ外環ヲ後方トナシ結合スヘシ）

七 頭体ヲ螺脱室ヨリ少最前進セシメ火門軸提桿ヲ緩著シ「チェンブ
ロツク」ニテ少シク江上シ置キ閉鎖ヲ少シツ、開キ頭体ヲ前方
ニ離脱ス

離脱シタル頭体ヲ臺上ニ下ス時ハ環環及鋼環ヲ損傷セサル如ク頭
体後方ヲ上方ニ持上ケツ、静カニ下シ直立セシム
八 鋼板後方鋼環内對鋼環前方鋼環ヲ上方ニ離脱ス

頭体ヲ結合スル場合ニ於テ頭体後方ニ刻字セル「上」ノ文字ヲ正
シク上方トナシ結合スヘシ
九 頭体ヲ離脱スル際頭体後方ヲ提打セサル様態ニ注意スヘシ

第十一 鑿環結合上ノ注意

一 鋼環ノ切缺部ノ位置ヲ前方後方相反スル（一八〇度）如クナス
ヘシ

二 鋼環ノ前方後方ヲ誤ラサル様注意スヘシ

三 鋼板ハ一枚ヲ以テ調整スヘシ

- 鋼板ノ種類左ノ如シ
- 一 耗、五耗、五、二耗、五、三耗、五、四耗、五、五耗、五、六耗、五、
 - 八耗、六耗
 - ノ十種ナリ

第二章 使用上ノ注意

第一節 閉鎖機

第十二 閉鎖機開閉時離合「レバー」ノ入レ方
一 離合「レバー」ヲ「閉」或ハ「開」フ方向ニナスモ離合筒嵌合セサル
時ハ電動機ヲ僅ニ回轉セシメ後僅ニ回轉ヲ續行セル間ニ「レバー」

ヲ「閉」或ハ「閉」ノ位置トナスヘシ

第十三 鑿環ノ「メニー」検査

一少量ノ「スピンドル」ヲ以テ光明丹ヲ良ク混和シタル後指頭ニテ

砲尾鑿環室ニ出來得ルタケウスク且等齊ニ塗布ス

ニ閉鎖機ヲ完全ニ閉鎖ス

三次に閉鎖機ヲ開放シ前方鑿環外周ニ等齊ニ「メニー」カ附着スル

如ク鑿板ノ厚サヲ變更シツ、調整スヘシ

其ノ際後方鑿環ノ調整モ成可ク精密ナルヲ要ス

第十四 閉鎖機閉鎖機ノ調整

所用工具

(イ) 自在「スパナ」大「スパナ」箱第一中匣收容

一電動機ニヨリ閉鎖機ヲ開閉セル際閉鎖機完全ニ閉鎖セスシテ「モ

ーター」カラノ傳導自動的ニ斷ルル時ハ上部ノ中央連桿(甲)ノ接續螺

ヲ後方ヨリ見テ時計廻ト反對方向ニ旋回シ調整スヘシ調整要領ハ

最初手動ニテ調整シ適當トナシソレヨリ約二回轉乃至三回轉接續螺

ヲ緊定スルハ大体良好トナル

ニ完全ニ閉鎖スルモ尙傳導自動的ニ斷レサル時ハ上部ノ中央連桿(甲)

ノ接續螺ヲ前項ト反對ノ方向ニ旋回シテ調整スヘシ

三閉鎖機完全ニ開放セツシテ傳導カ自動的ニ斷レタル時ハ下部ノ中

央連桿(甲)ノ接續螺ヲ後方ヨリ見テ時計ノ旋回方向ニ少シツ、旋回

シ調整ヲ行フヘシ最初ノ調整要領ハ(イ)ノ項ニ同シ

四閉鎖機完全ニ開放シタルモ尙傳導斷レサル時ハ前項ト反對ノ要領

ニヨリ調整スヘシ

第十五 閉鎖機開閉機制禦機及配電裝置起動器ノ「ノツチ」ノ入レ方

一「起動」ニ「タリ」制禦器又ハ起動器ノ轉把ヲ回轉スルニハ必ズ「ノ

ツチ」ツ、完全ニ入レルヲ要ス

中間ニ停止スル時ハ「スバ」ク「ヲ」生シ今後ノ回轉不能トナル

第十六 閉鎖機此螺筒下部ノ「キー」溝ハ閉鎖機開閉ノ機構上重大ナル所ナルヲ以テ反起等生シタル時ハ細目鏡ニテ丁寧ニ仕上ヲナスヘ

第二節 降退後

第十七 液ノ補充方法

所要工具

- (イ) 薄孔塞螺「スバナ」(「スバナ」箱一號收容)
- (ロ) 「リットル」盒 (手入用長箱中匣收容)

一 砲身ニ最大射角ヲ附與ス

ニ 降退管前面ノ二箇ノ薄孔塞螺ヲ薄孔塞螺「スバナ」ヲ以テ螺脱シ

下方ノ降液孔ヨリ「リットル」盒ヲ以テ逐次注液ヲナシ下方薄孔

ニ液滿量トナラバ下方薄孔ノミ閉塞シ次ニ上部薄孔ヨリ降液シ上

下兩薄孔共滿量トナラバ適宜ナリトス

第十八 降退後液ノ漏洩スル時

一 本火砲ノ降退後ハ液ノ漏洩スル事ハ稀ナルモ外氣ノ温度ノ變化急激ナル時等ハ時トシテ漏洩スル事有リ其ノ場合ノ處置左ノ如シ

所用工具

- (イ) 降退管前方塞螺唧筒前方及後方塞螺「スバナ」(「スバナ」箱四號第三中匣收容)
- (ロ) 唧筒後方塞螺「スバナ」(「スバナ」箱三號收容)

ニ 降退管後方塞螺ヨリ漏洩スル時ハ降退管前方塞螺唧筒前方及後方

塞螺「スバナ」ヲ以テ緊定スベシ

ニ 活塞桿ト壓螺トノ間隙ヨリ液漏洩セル時ハ壓螺ヲ唧筒後方塞螺「スバナ」ヲ以テ緊定スベシ

第三節 復坐

第十九 液量及空氣壓ノ點檢

所用工具

- (イ) 複螺「スバナ」(「スバナ」箱一號收容)
- (ロ) 壓力計(照準儀部具箱中匣收容)

一 液量ノ點檢ヲ行フニハ砲身ニ仰角一六分之二度ヲ附與シ注液氣辨ヲ儘ニ開キタル時液ノミヲ噴出ス

二 更ニ俯角一六分之二度ヲ與ヘ注液氣辨ヲ僅ニ開キタル時空氣ノミ
ヲ噴出スレバ液量ハ適度ナリトス

三 又砲身ヲ水平ナル時注液氣辨ヲ僅ニ開ケバ空氣ト液トノ混合セル粉霧狀
ノ氣體ヲ噴出スレバ液量ハ適度ナリ

四 空氣壓ヲ點檢スルニハ砲身ニ俯角約一度ヲ附與シ注液氣辨ノ壓螺
蓋螺ヲ脱シ開閉桿ニ復螺「スバナ」ヲ裝シ壓力計ヲ注視ツ、靜ニ
左方ニ戻同シ

壓力計ノ指針四十氣壓ヲ指セバ適度ナリ
然ラサレバ排氣或ハ注氣ヲナスベシ

第二十 液ノ補充法

所用工具

- (イ) 注液唧筒 (手入用具箱中匣收容)
- (ロ) 復螺「スバナ」 (「スバナ」箱一號收容)
- (ハ) 「リツトル」盒 (手入用具箱中匣收容)
- (ニ) 陸退液乙若干

一 砲身ニ若干仰角ヲ附與ス

二 注液氣辨ノ塞螺ヲ脱シ注液唧筒ヲ裝著シ
三 開閉桿ニ復螺「スバナ」ヲ裝シ左方ニ戻同シタル後注液ヲ實施ス
此ノ際注入困難ナル時ハ適當ナル液桿ヲ應用シテ實施スヘシ

第二十一 壓縮空氣ノ補充

所用工具

- (イ) 導管 (照準儀部具箱收容)
- (ロ) 接續螺 (屬品箱第一中匣收容)
- (ハ) 空氣接續管 (屬品箱第一中匣收容)
- (ニ) 氣蓄罐副螺 (照準儀部具箱中匣收容)
- (ホ) 壓力計 (照準儀部具箱中匣收容)
- (ヘ) 復螺「スバナ」 (「スバナ」箱一號收容)

一 砲身ヲ若干俯角トナス

二 注液氣辨ノ塞螺ヲ脱シ空氣接續管ヲ裝著ス
三 空氣接續管ニ壓力計ヲ裝著ス

四 導管ニ接續線ヲ裝着シ空氣接續管ニ導入ス
五 導管ノ他ノ一方ハ直接氣蓄罐ニ接續ス
六 導管ノ長サ不足セル時ハ二本或ハ三本接續シ氣蓄罐ニ接續スヘシ
七 各部接續終ラバ十分緊定シアルヤ否ヤヲ點檢スヘシ
八 復線「スバナ」ヲ以テ開閉桿ヲ戻回ス
九 壓力計ヲ注視シツ、氣蓄罐ノ壓線ヲ靜ニ戻回シ所定ノ壓力迄注氣
ス

第四節 裝 填 機

第二十二 自動切換裝置ノ機能良好ナラサル時
一 裝填車ヲ前進シ終ルモ尙上部ニ「モーター」ノ回轉運動傳導セサ
ル時ハ自動切換裝置ノ調整螺ヲ少シク、緊定シ調整スヘシ
ニコレト反對ニ裝填車後退シ終ルモ「モーター」カラノ傳導尙斷レ
サル時ハ前項ト反對操作ニヨリ調整スベシ
第二十三 起動停止齒車室ノ摩擦接手ノ調整方法
一 彈丸ヲ裝填車上ニ置キ起動「ハンドル」ヲ「裝」ノ位置トナスモ

鎖鎖突出セス又ハ突出セルモ彈丸ノ裝填ヲナサ、ルカ又ハ裝填不
良ナル時ハ摩擦接手（前）ノ駐子駐楔ヲ脱シねぢ戻ヲ以テ概ネ四
分ノ一回轉ヅ、緊定シツツ調整スヘシ
此ノ際一度ニ多量ノ緊定ヲ行フ様ナ事ナキ様又過度ニ緊定スルカ
如キ事ナキ様注意スヘシ
ニ 彈丸裝填後起動「ハンドル」カ自動的ニ「拔ケ」ノ位置ニ戻ルモ
鏈鎖ハ後退セサルカ又ハ後退不良ナル時ハ摩擦接手（後）ヲ前項
同様ノ操作ニヨリ調整スベシ
第二十四 各部ノ横桿長ノ規整ハ特ニ必要アル場合ヲ除キ部隊ニ於テ
ハ溢ニ實施スヘカラス

第五節 各防衛機注液及排液法

第二十五 退入防衛機
所用工具

(イ)「リットル」盒（手入用具箱中匣收容）

(イ) 自在「スバナ」(「スバナ」箱一號收容)

(ロ) 自在「スバナ」(「スバナ」箱一號收容)

(ハ) 注液唧筒へ手入用具箱中匣收容)

(ニ) 防衝器固定螺及蓋螺「スバナ」(乙)

(ホ) 駐退液若干

一 防衝機後方横部ノ蓋螺ヲ螺脱シ注液唧筒ヲ装着シ然ル後上部ノ排氣孔蓋螺ヲ螺脱ス

二 駐退唧筒ヲ操作シ駐液ヲ實施シ上部ノ排氣孔ヨリ液溢レ出レバ満量ナリ

三 駐液唧筒ヲ螺脱スル際ハ上部ノ排氣孔蓋螺ヲ緊定セタル後ニ於テ行フヘシ

四 排液ヲナスニハ防衝器前面ノ緊定螺ヲ防衝器駐定螺及蓋螺「スバナ」(乙)ヲ以テユルメ蓋螺ヲ前者ノ「スバナ」ニテ螺脱スレバ液ハ一度ニ前方ニ流出スルナリ

第二十六 裝藥裝填防衝器

所用工具

(イ) 注液唧筒 (手入用具箱中匣收容)

(ロ) 自在「スバナ」(小) (「スバナ」箱一號收容)

(ハ) 「リットル」盒 (手入用具箱中匣收容)

一 裝填機右側面中央部ノ二箇ノ蓋螺ヲ脱シ一方ニ注液唧筒ヲ裝著シ注液ス

満量トナラバ排氣孔ヨリ液溢レ出ルヲ以テ液流出シタレハ満量ナリ

二 注液終ラバ蓋螺ヲ十分手ニテ緊定シ置クヘシ

三 排液ヲナスニハ排氣孔蓋螺ヲ脱シ自在「スバナ」(小)ヲ以テ裝填機下部ノ排液孔蓋螺ヲ脱シ行フヘシ

第二十七 彈丸裝填防衝器

所用工具

(イ) 注液唧筒 (手入用具箱中匣收容)

(ロ) 自在「スバナ」(小) (「スバナ」箱一號收容)

- 一 裝填機前方右側面ノ二箇ノ蓋障ヲ脱ス
- 二 其ノ後ノ操作ハ前項裝藥裝填防衝機ニ同シ
- 三 排液操作モ亦前項同様ナリ

第六節 高低照準機

第二十八 手動ヨリ電動ニ切換ヘル順序左ノ如シ
 一 轉輪ヲ靜ニ回轉シツ、垂直軸離合「レバー」ヲ手ニテ電ノ位置トナス

二 起動軸離合「レバー」ヲ電動トス
 第二十九 電動ヨリ手動ニ切換ヘル順序左ノ如シ

- 一 垂直軸離合「レバー」ヲ手動トス
- 二 轉輪ヲ靜ニ回轉シツ、起動軸離合「レバー」ヲ手ニテ手動ノ位置トス

第三十 摩擦板ノ手入及緊定度

所用工具

- (イ) 丁字形ねぢ同中 (「スバナ」箱一號收容)
 - (ロ) 高低照準機齒車軸「ナット」スバナ (「スバナ」箱第二號第一中匣收容)
 - (ハ) 解脱子(乙) (「スバナ」箱一號收容)
 - (ニ) 自在「スバナ」大 (「スバナ」箱一號收容)
- 又ハ兩口「スバナ」

- 一 丁字形ねぢ同ニテ蓋板ヲ脱ス
- 二 自在「スバナ」大ニテ小ねぢヲ螺脱ス
 此ノ小ねぢハ左ねぢナルヲ以テ注意スベシ
- 三 高低照準機齒車軸「ナット」スバナヲ以テ「ナット」ヲ螺脱後坐板「ペルビール」ばねヲ脱ス
- 四 解脱子(乙)ヲ以テ摩擦板ヲ一枚ス、抽出ス
 此ノ際發錆シ有ル時ハ完全ニ錆ヲ除去スルヲ要ス
 結合ニ際シテハ摩擦面ニ絶体塗油スベカラズ

又左右ヲ混向セサル様摩擦板側方ニ刻セル數順ニ結合スベシ
 緊定度ハ適度ニ規正決定シアルモ若シ射撃間後坐ノ終期ニ於テ砲
 身搖架カ砲耳輪周ニ旋回スルノ度著シキ時ハ緊定度ヲ修正スベシ
 而シテ適度ナル緊定度ハ一號裝藥ヲ用ヒ十度附近ノ射撃ニ於テ砲
 身搖架合成体ノ旋回約十度附近ニアルヲ標準トス

第七節 方向照準機

第三十一 手動ヨリ電動ニ切換ヘル順序左ノ如シ

- 一 方向照準機齒輪室右方ノ離合「レバー」ヲ「電」ノ位置トナス
- 要領 方向照準機ヲ靜ニ回轉シツ、行フヘシ
- ニ 垂直軸離合「レバー」ヲ電ノ位置トナス
- 要領 「レバー」ヲ「電」ノ方向ニナスモ離合筒嵌合セサル時ハ電動
 機ヲ僅ニ回轉セシメ後僅ニ回轉ヲ續行セル間ニ「レバー」ヲ「電」
 ノ位置トナス

第三十二 電動ヲ手動ニ切換ヘル順序左ノ如シ

- 一 垂直軸離合「レバー」ヲ「手」ノ位置トナス

齒輪室右方ノ離合「レバー」ヲ「手」ノ位置トナス

第三十三 摩擦板ノ手入及緊定度

所用工具

- 一 自在「スパナ」
- ニ 高低照準機齒直軸「ナットスパナ」
- 三 解脫子「「スパナ」箱一號收容」

- 一 齒輪室蓋板ヲ脱ス
- ニ 高低照準機齒直軸「ナットスパナ」ヲ以テ「ナット」ヲ脱シ坐板
 「ベルビル」ばねヲ脱ス
- 三 解脫子(甲)ヲ以テ摩擦板ヲ上方ニ抽出シ發錆シ有ル時ハ完全ニ錆ヲ
 除去スルヲ要ス
- 結合ニ際シテハ摩擦面ニハ絶體ニ塗油スベカラス
- 又摩擦板側方ニ刻セル數順ニ結合スベシ
- 摩擦板ノ緊定度ハ出來得ル限り緊定スベシ

第八節 砲耳ノ扛起度

第三十四 砲耳ノ扛起度ハ砲耳室下面ト砲耳トノ間隙約二倍程度ヲ適度トス

第三十五 砲耳ヲ扛上スルニハ剛輪「スパナ」箱五號收容ノ扛起横桿ヲ砲耳扛起装置下部ノウォーム軸ニ装着シ砲尾ヨリ見テ左方ニ旋回シ實施ス

ニ砲耳ヲ下スニハ前項ノ反對ノ操作ニヨリ行フ

第三章 保存及手入

第一節 閉鎖機

第三十六 鑿環ノ保存手入

一 鑿環ヲ裸体ヨリ取外シ保存スル場合ハ必ズ鑿環匣ニ入レ規定ノ鋼板及鋼環ヲ入レ十分緊定シ置クヘシ

二 鋼板鋼環ハ十分手入ヲナシタル後少量ノ油ヲ塗布シ鑿環ト共ニ鑿環匣ニ收容スベシ

但シ鑿環ニ面スル部分ニハ絶体ニ塗油スドカラス

三 保存間ノ手入ハ約一ヶ月一回手入ヲ行フヲ要ス

又海岸及濕地等ニ於テハ時々點檢シ發錆シタル際ハ速ニコレヲ除去スヘシ

其ノ際絶体ニ磨研布ヲ使用スルコト無ク砥草ヲ用フヘシ但シヤムヲ得サル時ハ磨砂ヲ使用スル事ヲ得

四 手入後ハ十分拭淨スヘシ特ニ磨砂ヲ使用シタル時ハ此カヲ燒付ヲ生ヌルカ如キ事無キ様注意スヘシ

五 鋼環ノ手入ニ際シテハ十分注意ヲシ切换部其他ヲ破損セサヤ様注意スヘシ

六 門管室ハ常時及時後共十分手入シ置クヘシ
手入不十分ナル時ハ射撃時後方ニ「ガス」洩ヲ生シ逐ニハ發火機ヲ破損スルニ至ルコトアリ

七 門管室ノ手入ニ際シテハ門管室ヲ分解手入スル事無キ様注意スヘシ

ハ火門軸ヲ交換スル際ハ規定ノ順序ヲ過テ行フ事
總体部隊ニ於テ分解スヘカラス

第二節 ころ手人及注油

第三十七 ころノ手入

一 ころ軸出窓蓋板ノ小ねぢヲ脱シ提桿ヲ裝著シ上方ニ離脱ス
ニ 砲ニ方向ヲ附與シツ、手入木綿ニテ手入ヲナスヘシ

第三十八 注油法

一 注油ノ方法ハ高低照準機齒軍室下部ノ左右各一箇所(油口三箇)
及砲尾後方ノ裝填機右方下部ノ同轉盤上ノ三箇ノ注油孔ヨリ注油
ヲナス方法ハ前項手入ノ際ト同様方向ヲ附與シツ、注油ヲ實施ス
ヘシ

第三節 各電動機ノ注油方法

第三十九 各電動機ノ注油ハ概ネ年二回油壺ニ「モーターオイル」ヲ
満量迄注油セハサナリ

其ト以上注油セルモ油ヲ損失セルノミニテ效果ナシ
但シ油壺ニ油無キ時ハ使用前注油スヘシ

第四章 射撃上ノ注意

第四十 射撃前特ニ左ノ事項ヲ檢スヘシ又射撃間ト雖時々之ヲ檢スル
ヲ要ス

- 一 復坐機内ノ空氣壓
- 二 駐退機復坐機内ノ液量
- 三 砲耳扛起度
- 四 象限儀ト射角板トノ一致

第四十一 射撃間毎發機内檢査ヲ怠ルヘカラス

第四十二 連續射撃スルトキハ砲身ハ勿論駐退機及復坐機ノ溫度著シ
ク上昇スルヲ以テ長時間連續射撃ヲ要スル情況ニ際シテハ應用材料
ニヨリ之カ冷脚法ヲ講スルヲ可トス

第四十三 後坐長ノ値ハ各火砲ニヨリ多少ノ差異アルハ勿論同一火砲

ニ在リテモ裝藥號及射角ヨリテ差異アルヘシト雖左ノ場合ニ於テ
ハ一旦射撃ヲ中止シ各部ヲ點檢スヘシ

一號裝藥射撃ニ於テ發射長一〇〇ヲ越ルカ時ハ砲尾面力砲床
又ハ砲架ニ激突スル虞レアルヲ以テ特ニ注意スヘシ

ニ二號裝藥以下ノ裝藥ヲ用ユル射撃ニ於テハ後坐長ニ嚴密ナル注意
ヲ拂フヲ要セス 單ニ後坐ノ景況ニ注意スレハ可ナリ各砲
ノ後坐長及復坐機内ノ採用スヘキ空氣壓ハ履歴表ニ就テ承知シテ
ルヲ要ス

第四十四 後坐長過小ナル原因概ネ左ノ如シ

- 一 復坐機内空氣ノ初張力過大ナルカ
- 二 連發射撃ノ爲液体及空氣ノ温度高上且膨脹シ張力増大セルカ
- 三 復坐機又ハ復坐機内部具ニ變歪ヲ生シ摩擦増加セルカ
- 四 復坐機液過度ニ濃厚ナルカ
- 五 復坐機内空氣ノ初張力過小ナルカ

ニ 復坐機液稀薄ナルカ

三 復坐機活塞頭ノ周圍磨滅セルカ

第四十六 復坐不足ヲ生スル原因概ネ左ノ如シ

- 一 復坐機内空氣ノ初張力過小ナルカ
- 二 復坐機又ハ復坐機内部ニ變歪ヲ生シ摩擦抵抗力増加セルカ
- 三 復坐機液量不足シ管内ニ空氣ヲ包藏スルカ
- 四 復坐機活塞桿ニ設クル復坐漏孔閉塞シ復坐節制機能良好ナラサルカ

第四十七 復坐速度過大ナル原因概ネ左ノ如シ

- 一 復坐機内空氣ノ初張力過大ナルカ
- 二 復坐機活塞頭ノ活塞辨機能ヲ害シテ復坐間十分閉塞セサルカ

第四十八 遊標發條過弱ナルトキハ後坐運動ニ際シ滑走桿ハ既ニ停止
スルモ遊標ノミ既ニ得タル速度ヲ以テ尙後退シ實際以上ノ後坐長ヲ
示スコトアルヲ以テ注意スルヲ要ス

第四十九 長時間ニ互リ連續射撃スルトキハ復坐機内ノ温度上昇シ從

ヲ空氣壓ハ高上スベシ然レトモ復坐終期ニ於テ衝突ヲシサル限
リハ射撃ヲ續行スルモ差支ナシ

第五十 少量ノ復坐不足ハ敢テ憂懼スルニ足ラスト蝟此ノ復坐身
復坐ノ景況ニ注意スヘシ復坐不足ハ復坐機内空氣又ハ液ノ漏洩或ハ
連續射撃ノ結果腔内ノ溫度上昇シ從テ腔内液膨脹シ又ハ氣化
ヲ生シタルニヨル故若此ノ場合ニ在リテハ復坐空氣壓ノ補給ヲ行
カ又腔内少量ノ液體又ハ氣化體ヲ排出スルヲ要ス

第五十一 腔内液體ノ一端ヲ腔内前方ニ對シテ分岐シテ前方
リト蝟他端ハ自己ノ重量ニヨリ垂下セントスル傾向アルヲ以テ前方
腔内トノ間ノ緊定困難ナリ故ニ射撃間時トシテ此ノ接觸ニリ腔内液
ノ漏洩スルコトアリ

然ル時ハ更ニ腔内液體ヲ緊定スルヲ要ス

第五十二 門管不發火ナルトキハ再三發火ノ動作履行スベシ尙不發火
ナルトキハ不慮ノ危險ヲ避ケル爲小許ノ時間ヲ置キ此ノ時間ハ小
隊長以上ノ諸官ニテ指定スベシ

門管ノ不發火發火ノ故障ニ起因スル疑アルトキハ直ニ發機ヲ分
解シ之ヲ原因ヲ探究スルヲ要ス

第五十三 火藥瓦斯發射後方ニ漏洩スルヲ認ムレハ直ニ「メニ」檢
査ヲ行ヒ

第二章第九ニ示セル要領ニヨリ調整スヘシ

第五十四 稍々長時間ニ互リ射撃ヲ連續スルトキハ各注油孔殊ニ砲身
搭架ノ摩擦部ニハ十分注油スルヲ要ス

又射撃間各部ノ「ナット」ノ緩解セシモノナキヤヲ注意スルヲ要ス
第五十五 眼鏡ハ雨水ニ觸ルルヲ最モ有害ナルヲ以テ之ノ取扱ニ注意
スルヲ要ス



